

型社会の再生と創造を提案させていただきます。

第二が「地域文化の再生と創造」。文化は人々の生き甲斐を生み出し、社会創造の新たなソフトを開発し、新たな経済と社会システムを生み出す原動力となる「クリエイティビティ(創造力)」を高めます。とくに近年注目されているのが、有形無形の地域遺産に注目し、これを地域の文化資源として活用し、地域・都市創造に取り組む事例です。これを地域再生のために活用することが重要です。

第三が「市民自治による社会的な課題解決」。地域再生の取り組みにおいて、最も重要なのが市民自治を担う市民セクターのイニシアティブです。これまでのように市民セクターが行政の下請けだったりするのではなく、これからの地域再生は市民自身による組織づくり、市民セクターを強化する新たな戦略が必要です。寄付制度など、市民組織が自主財源を確保できる仕組みを強化し、雇用を含む市民組

織の自立を促す制度設計が求められています。

第四に「セクター間ネットワークの強化」。市民セクターを強化していくためには、行政を含め、企業、大学、商店などの個人事業主など、地域を基盤とするさまざまなセクターが支援し協力しあっていくことが必要です。とくに地域に根ざした企業の役割がますます重要になります。現在でも地域企業の人材や技術などさまざまな資産を地域再生のために活用することで成果を挙げている例も多々あり、これをネットワーク化することで、今まで以上の力を発揮することになると考えます。

第五が「地域間ネットワークの形成」。国内外を問わず、それぞれの地域で工夫を凝らし、目覚ましい成果を挙げているところ、あるいはユニークな目標を立て、実績を上げているところなどが、各々の手法をもっと水平展開し、地域間のネットワークをさらに強化することが地域再生に大きく寄与します。互いに情報交換をしたり、

共同で事業に取り組んだりすることで、単独では不可能なことも可能に近づけることができるようになります。

文化力を高め、活気ある社会へ

私たちは社会全体に漂う閉塞感に押しつぶされてはなるまいと思っています。今こそ文化力を高め、社会を活気ある元気なものにしていく必要があります。また、私たちにその力はあるはずだと信じて行動していきたいと思っています。関西、あるいは大阪にはニュー・コンパクトの実践事業のモデルともいえる活発な民間活動がたくさんあることを力強く感じております。市民の持てる知恵、持てる資源を出しあって、新しい地域づくり、新しい公共を作っていくことこそ、これから求められることなのです。そのために、今の状況を変えていこう、そのために一緒に汗をかこうという意気込みのある人たちの存在こそが、着実な前進を支えるものだと思っています。

大阪文化祭賞受賞者コンサート



基調講演のあとは、チェリストの林 裕ほやしゆたかさんによる記念コンサートが開催された。林さんは平成21年度の大阪文化祭賞グランプリ受賞後、関西在住の音楽評論家をつくる『第30回音楽クリティッククラブ賞』も受賞。10年に1人といわれる逸材として広く注目されている。この日はピアニストの鈴木華重子さんの伴奏で、サンサーンスの『白鳥』ほか4曲を披露した。

交流会では、岩本恵理さん(ピアノ)がショパン生誕200年を記念して、代表曲である『ポロネーズ(英雄)』や映画『戦場のピアニスト』でも演奏された『ノクターン(遺作)』など4曲を披露。岩本さんは平成21年度の大阪文化祭賞奨励賞受賞者で、現在、ポーランド(ワルシャワ)と奈良を拠点に、日本とヨーロッパでオーケストラとの共演やリサイタルに定期的に出演している。

林 裕(チェリスト)/本誌表紙にも掲載
東京藝術大学卒業。第62回日本音楽コンクールで第1位・黒柳賞。アフィニス文化財団及びローム音楽財団の奨学生として、ドイツ・フライブルク音楽大学大学院留学、首席修了。青山音楽賞、松方ホール音楽大賞など受賞多数。兵庫県立文化芸術センターのシリーズで年間支持率No.1アーティスト。'93～'96年大阪フィル首席チェロ奏者。現在、神戸女学院大学、相愛大学非常勤講師。

岩本恵理さん(p25にプロフィールなど記事)